

令和7年度 厚木清南高等学校 不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
法令遵守意識の向上	○法令遵守、服務規律の再確認・徹底	「コンプライアンス意識の醸造」「服務規律の遵守」の点検資料を用いて、セルフチェックを行い、法令遵守、服務規律の再確認・徹底を図った。また、年末には交通安全と適切な飲酒行為に関する意識啓発を職員に呼び掛けた。目標は十分に達成できた。
職場のハラスメント(パワハラ・セクハラ・マタハラ等)の防止	○パワハラ・セクハラ・マタハラ行為等を未然に防止する	「職場のハラスメント防止」の点検資料を用いて、セルフチェックを行った。合わせて職員を講師として、各種のハラスメント行為に関する適切な見識の再確認を図った。目標は十分に達成できた。
児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	○当事者意識をもち、生徒へのわいせつ・セクハラ行為等が起こらないようにする	「Stop! ザ・セクシャルハラスメント」の点検資料を使用してセルフチェックを行った。7月には本校SCを講師として三課程合同の職員人権研修会を行い、本校生徒のストレス要因とメンタルヘルスの変化を学び、対応方針を議論するなど、適切な生徒支援の見識の涵養を図った。目標は十分に達成できた。
入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取り扱いに係る事故防止	○入学者選抜、成績処理、進路関係書類等作成及び取扱いに係る不祥事を防止する	「入学者選抜の事故防止」の点検資料を使用して、セルフチェックを行った。また、入選資料の読み合わせや電子出願システムの操作確認等を入念に行い、事故防止の徹底を図った。目標は十分に達成できた。
体罰・不適切指導の防止	○当事者意識をもち、生徒の人権に配慮し、体罰、不適切な指導が起こらないようにする	「体罰、不適切な指導の防止」について、職員を講師として、体罰、不適切な指導に関して適切な見識の再確認を図った。目標は十分に達成できた。
交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	○交通事故・酒酔い運転・酒気帯び運転を未然に防止する	「飲酒運転の根絶」の点検資料を使用してセルフチェックを行った。合わせて、職員を講師として、飲酒運転等の根絶に関する適切な見識の再確認を図るとともに、年末には交通安全と適切な飲酒行為に関する意識啓発を職員に呼び掛けた。目標は十分に達成できた。
業務執行体制の確保等(情報共有、相互チェック体制、業務協力体制)	○業務執行体制を整え、不祥事を防止する ○情報の発送時、配付時の複数人でのチェックを行う	「風通しの良い職場づくり」(適切な業務体制の整備)の点検資料を使用してセルフチェックを行うとともに、職員を講師として業務執行体制の確保にむけ、適切な見識の再確認を行った。職員の業務協力体制については課題があるが、目標はおおむね達成できた。

- 令和7年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和8年度に取り組むべき課題
(学校長意見)

次 項 掲 載

令和7年度不祥事ゼロプログラム 検証結果 学校長意見

本校では、学校経営の重点事項として、多様性や人権の尊重、互いに敬意を払う働きやすい職場づくりを掲げている。しかし、人権意識の向上の面では、なお職員一人ひとりが継続的に取り組むべき場面も見られる。教員自身が日頃から人権感覚を磨き、言動に反映させることが、生徒の人権意識向上につながるという認識のもと、今後も引き続き取り組みを進めていきたい。

わいせつ・セクハラ行為の防止については、職員会議等で懲戒処分指針や教職員倫理指針の趣旨を共有するとともに、不祥事防止研修において、生徒とのSNS禁止など、基本的なルールの繰り返しの確認を行ってきた。令和8年度に向けては、研修がやや形式化している課題を踏まえ、動画教材や生成AIなども活用し、より職員自身が実感をもって学び、自らの行動を振り返ることのできる研修への改善を目指したい。

入学者選抜については、3課程それぞれで多様な方式が行われているが、過去の事件事例や事故が起りやすいパターンを共有し、適正な手続きに努めてきた。生徒の人生に大きな影響を与える極めて重要な業務であり、過ちは決して許されないという共通理解のもと、今後も緊張感と責任感をもって取り組んでいく。

業務の効率化では、サービス手続きの電子化や欠席連絡のオンライン化などにより一定の成果が見られた。また、インターネットバンキングは導入2年目となり、業務の流れが定着しつつある。引き続き、より効率的で事故リスクの少ない運用を検討しながら、教員が教育活動に専念できる環境整備を進めていきたい。さらに、衛生委員会を中心に「働きやすい職場づくり」に取り組み、アンケートをもとにした業務環境の改善など、組織としての改善サイクルを構築している。

また、今年度は「清南ミーティング」による職員同士の対話の場を設け、意見を吸い上げやすい仕組みづくりや、率直に意見交換ができる風通しの良い職場づくりを進めてきた。これにより、課題の共有や改善提案がより行われやすい環境が整い、組織としての活力向上にも寄与したと考えている。今後も、こうした双方向のコミュニケーションを推進し、課題を組織全体で改善していく文化の醸成につなげていきたい。

開校から20周年を迎えた本校は、設立当初からの「柔軟な学びの仕組みにより、多様な生徒を支援する」という理念を継承し、今後も多様性や人権を尊重した教育活動を中心に据えていく。令和6年度からの学校教育計画では、「誰もが自分らしく過ごせる安心・安全な学習環境」の実現を掲げ、生徒支援体制の強化と働き方改革の推進を重点に置いている。

一方で、定時制の募集クラス減に伴う職員定数の減少という大きな課題にも直面している。今後は教育課程の精選や学校行事の見直し、一層の業務効率化、課程間連携の強化などに取り組み、限られた人員の中でも教育の質を維持・向上できる体制づくりが求められる。

次年度の重点項目としては、

- ① セクハラ等不適切な指導事案根絶への取組の継続（倫理指針の共通理解）
- ② 個人情報の適正管理（漏洩防止・適正取扱いの徹底）
- ③ 事務執行体制の確保（働き方改革と生徒支援の充実）

に加え、

- ④ 不祥事防止研修の実効性向上（動画教材や生成AIなどの活用）
- ⑤ 職員定数減への対応（教育課程の見直し・課程間連携・効率化）
- ⑥ 清南ミーティング等を活用した風通しの良い組織文化の維持・向上

の3点を加え、学校全体で推進強化を図っていきたい。

本校が掲げる理念を基盤に、これらの取り組みを職員全体で共有し、安心・安全で信頼される学校づくりと、不祥事ゼロの組織体制の構築に今後も努めていきたい。